慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

1991(春・夏号) vol.5

6期生〜10期生 座談会

農高から志木校へ！

志木会の活性化を図ることを目的として、幾つかの期に分けて、それぞれの志木高校在学時の思い出を語る〝座談会〟を実施致しました。

今回は6期生から10期生による座談会の模様です。

参加者：乙部勝、内藤久和雄(以上6期生)、菅原武、出口皚二郎、平澤寿朗(以上7期生)、青木宏至、大須賀均、杉本亘孝(以上8期生)、加島延夫、南部達雄(以上9期生)、荒木幸生、馬場紘二(以上10期生)(アイウエオ順、敬称略)

司会　6期の方から自己紹介がてら、当時の学校の様子についてお話しいただけますか。

内藤　当時は今から30年以上前になりますが、一番すぐに頭に浮かぶのは、我々は慶應義塾農業高校という時代でしたから高山先生のもとで農業実習したことですね。堆肥をまくとかね、ふつうの高校では経験できませんよね。二つ目は当時の宮崎澄夫校長先生のことなんですが、校長先生自身が授業を持って下さいまして、一緒に本を読んだ経験がとても印象深いでした。

乙部　今、内藤さんが話してくれたんですが当時の学校の周りの様子を思い起こすと、ずい分様変わりして今はとても賑やかになりましたね。当時は駅を降りると右側に食堂があるだけであとは何もありませんでした。正門を入るとすぐに本館があり、右の木立の中に相撲場が、そうそう収穫際のときに相撲をした記憶があります。しかし一番の印象は実習ですね。私の場合は3年間お世話になった後麻布獣医科大学という獣医の大学に進みまして、そして、獣医になってそれをもとに農畜産関係の仕事をしております。

乙部

菅原　私の思い出は、農高出身のプライドといつも日吉の連中に負けるなという思いですね。我々のときまで大学進学では一般と同じ受験をしましたからね。また、自然や土に親しんできた男らしさは誇れます。厳しい実習でどんな苦労があってもいつか終ると思ってやってきました。そのお蔭というか、ヨットの個人選手権で第一位を取れました。

出口　私は農高を出て日大の獣医畜産へ進みまして、今は動物病院をやっています。丁度農高に入学した頃にクラブ活動というのができまして、弓道部に入ったんですが、この事が一番の楽しい思い出です。

出口

平沢　そう、いろいろなクラブが始まりました。私の代では卓球部を作らさせてもらい、最初のキャプテンをしましたが、当時の卓球室といえばコンクリートの上に卓球台が一台、それも納屋みたいな所でやるわけですよ。窓がないんでドアを開けると風が入ってくるし、もう本当に卓球自身が暗いスポーツの上に、部屋も暗いから本当に暗かったですね。話はそれますが、私は兄弟が自分を含め3人とも

志木校を卒業しましたが、私の一つ上にもいらっしゃいました細井さんは4人が志木卒だそうです。(笑)

杉本　志木高といえば、8期の私達が卒業する頃には学校が志木校に変わりました。確か卒業証書には志木高等学校農業科と書かれていたかなあ。それと、学校に並んで先生方の宿舎がありましてね、期末試験なんかでみんな出来が悪いと、「先生はちょっと忘れものがあるから、みんな相談しないでしっかり答案を書くようにな。」なんて先生がいなくなると、みんなで相談なんかして点が良くなると「結構出来るようになったな。」なんて言ってくれて、非常にのどかな学校生活でした。

杉　本

平沢　農高は福沢先生の実学の精神を体で体験していると思いますよ。私は当時、今もそうですが、茅ケ崎に住んでおりましたので、そこから東海道線で品川に出て、山手線で池袋まで行き、東上線に乗り換えるといった具合で、当時で2時間半ほどかかりました。毎朝4時30分頃起きて通っていたんですが、まあ先輩で5期と6期の方で平塚と茅ケ崎から通っている方がいて、その3人で朝始発の東海道で一緒に通っていたんですよ。入学式の日のしょっぱなに遅刻しちゃいましてね、高山先生に怒られました。もう翌日からは3年間、無遅刻、無欠席。これが唯一の誇りかなあ。

平　沢

朝から晩まで農業実習

青木　平沢さんと同じで、親の強い勧めもありまして農高に編入しましたが、これで2年間楽して大学に行けるかなと思ったら、大学へ行くにも試験を受けなくてはいけないと聞かされて、もうびっくり。それで授業料も日吉と同じなんですから。でも入ったからには一生懸命やらなくちゃいけないということで2年間やってきました。あの頃は週に一回だけ農業実習がありましたが、朝から晩まで。もうつらい、つらい。ただ、あの時のふんばりが社会に出てから役だったんじゃないかと強烈に感じます。あと学校の中に柿の木々があって、それを取って食べているところを管理人のおじさんに見つかって「コラー」と怒られたことがしばしば。一日散に朝霞の駅まで走っていって食べたもんですよ。(笑)でも楽しかったですね。

加島　9期の私の時は、入った時は農業高校で出た時は志木校という時代でしたが、農業高校のイメージがどうしても強くて、百姓をだいぶやってたという思い出が強いですね。スポーツが好きでしたから野球部にでも入ろうと思っていたのですが、当時は相撲部が全盛の時代でしたので、誘われるままに相撲部に入りました。相撲部は悪友達のあつまりのようでしたが、とてもなごやかでたくさんの思い出があります。

加　島

南部　私は栃木県から出てきたんですが、こわいおじさんみたいな人が結構いて、これは怖い学校に入ってきてしまった、というのが第一印象です。ちょうど2年の時でしたか、高山先生の担任で塀のすぐそばの教室だったんですが、先生が窓を開けて「ピーカンが落ちてるが、俺はピーカン吸わないのに何で落ちてるんだ。」なんて、もうびっくりしちゃった。

南　部

出口　参考までに言うけど、大正生まれの人もいたらしいよ。(爆笑)

荒木　私の頃もそうですよ。休み時間に平気でタバコを吸って花札をやったりしている人がいるんで聞いてみると、とうに成人式をすぎているんで当然だと言われました。私は生徒会だ新聞部だと目立ってましたんで、よく職員室に呼ばれましたが、そういう人達に呼び出される方がずっーと怖かったですね。

馬場　新聞部といえば、1期上の井上さんを中心にここにいる荒木君と一緒に志木校新聞

の創刊をやりました。創刊が昭和32年9月9日でして、それから生徒会をつくろうじゃないかってんで新聞を通して運動をしましたが、当時の吉田校長がなかなか認めてくれなくて結局初会式は昭和33年の6月4日でした。1期上の石井さんが生徒会長になり、荒木君が収穫際の実行委員長。新聞は夜中まで構成をやったりして大変でしたが、高校生としてはなかなか出来ない貴重な経験をさせていただきました。だから私の場合、この新聞に一番の思い出が詰まっています。

馬　場

オシャレに着こなす作業着

司会　農芸については農業高校から普通高校への転換期ですが、皆さん農芸についてはご経験があると思いますが。

内藤　そうですね。堆肥をまくのに2人1組でやるんですが、担ぎ方が悪いと前の人に堆肥がかかってしまったり、もう大笑いですね。高山先生が口うるさくコツを教えてくれましたっけ。その先生が喜んでくれたのは、私が大学に入ってからの6期の農高の同窓会を都内のホテルで開いた時でした。その頃はもう志木校に変わっていたので志木校第6期と書いてあると思っていたところ、慶應義塾農業高校第6期と書いてあり、高山先生は農高の同窓会ということで本当に喜んでいたのを覚えています。

内　藤

乙部　あと先ほど話しに出た三田先生と何人かの仲間で読書会みたいのを長い間やっていて、本当に教師と学生が全人格的なふれあいができました。建部先生とか大館先生や畜産の田村先生とかの話も今思うとかなりレベルの高いものでしたね。

菅原　作業着をどれだけオシャレに着こなすかなんてことも気にしていたなあ。僕の思い出として、たまたま女子校が見学に来るという時がありましてね、幸か不幸かそのとき数学の試験で2回連続満点を取ったので試験免除となった。ところがその為に、女子校が来ているさなか、豚の世話をしてよいと言われて、あの時ほど授業に出ていたいと思ったことはありませんでした。(笑)

菅　原

クラブ…、修学旅行…

司会　クラブ創設にあたっての苦労話があれば、ぜひ聞かせて下さい。

大須賀　まず大変なことは、部員が少ない。そして学校からは場所以外は何も援助がなかったことです。

杉本　対戦する相手にしても公式戦以外は今までの中学のつてとかでやっていましたよ。

大須賀　技術的には結構うまいのがいて、1年下の岡崎はバリバリで、最高で、県の決勝までいきました。そうそう川越で試合をやったとき村祭りと重なっていて時間通りに選手が着いていない。で、地元の人が気をきかせて、さつまいもを差入れてくれたので、腹一杯食べたらおかげで試合は負けてしまった。(笑)

大須賀

平沢　弓術部の場合は宮崎澄夫校長先生が弓をやっていたので道場を作ってくれたり、大菅さんの卓球部とは違って非常に援助してくれたのでうれしかったです。確か宮崎先生の実家が杉並の井草八幡でやぶさめをしている家と聞いていましたが。

加島　相撲部のことですが、その頃とにかく相撲は強かったですね。でも、志木校に変ってイメージが合わないのか、だんだん弱くなり最後は消えちゃいました。あの頃は、実習の後に相撲をとるのが日課だったせいか、底辺が広かったですね。

司会　お話しはつきませんが、修学旅行はいかがでしたか。

菅原　6期の先輩が修学旅行で別府に行ったようですが、何かもめ事があったらしく今度別府に行ったら殺されちゃうてんで、僕らははずされましたよ。で、行った先でも先生が

『おまえ達外へ出るな』と言って１升瓶持ってきて、酒を一緒に飲んだ覚えがあるよなあ。今の高校では考えられませんね。

青木　僕達のときは長崎で外出禁止令がでましたよ。ただ校長先生が一緒に来てくれたせいでしょうか、中津の駅に着くとブラスバンドが迎えてくれて若き血を演奏して下さいました。もう皆、うれしいやら、恥しいやらで三田会の力を感じましたね。

青　木

南部　我々のときは神戸の女学校とずーっと同じ行動をしていました。しかも宿泊先も同じ、それで仲よくなったのもいたそうですよ。

司会　最後に当時の志木の様子はどうでしたでしょうか。

荒木　当時は森があって、夜歩くのも怖かったですね。最近先生に聞いたんですが、今の生徒は柿は取って食べるんじゃなくて、買って食べるものだってんで、柿の木の柿が全く減らなくて、結局鳥のエサになっちゃうらしいですね。僕達の時は柿を取って食べちゃうから本当に丸裸で、残ることはなかったですけどね。

荒　木

加島　昔の農場はみんなグランドになったんでしょ。今は周りはみんな住宅ですか、昔は畑ばかり。当時弓を飛ばしても広かったので危なくなく、同期で模型飛行機の好きな奴がいて、ジェット方式だとか言ってマッチで火をつけて飛ばしていましたよ。

馬場　志木の様子が変わりはじめたのは、塾が財政ピンチで志木校の土地を売ってピンチを救おうとした頃じゃないでしょうか。

内藤　校門の前にマンションができたり、志木の再開発に応じて東の畑を売ったりしたからね。今では当時の半分位ではないかしら。電車も木製からスチール製に変わりました。

司会　お話は尽きないと思いますが、また今日は上下５期の差があるんですが、こんなになごやかにお話しいただきまして志木校気質みたいのを感じることができました。どうも有難うございました。

収　穫　祭

収穫祭は11月３日（土）、４日（日）の連休に行われました。３日は快晴でしたが、４日は終日強い雨となり講演会の聴講者の減少や志木会ルームでの売上が懸念されましたが泉麻人氏の後援会では70％を超える入場、そして志木会ルームでは本会計に10万円の拠出という当初の目標は達成されました。

しかし講演会の場合、今回は12時半開始ということで実行委員会と話合っていましたが会場の体育館が12時すぎまでバレーボールの試合があり、その後の会場のセット（マット敷き、椅子ならべで30分）、聴講者の呼び込み（30分以上を要する）で予定開始が無理になりました。たまたま泉氏も車の渋滞で遅れ１時開始となりました。さらに強い雨の追い打ちで学生達は動員に汗をかき、当方はハラハラの開始前40分間でした。

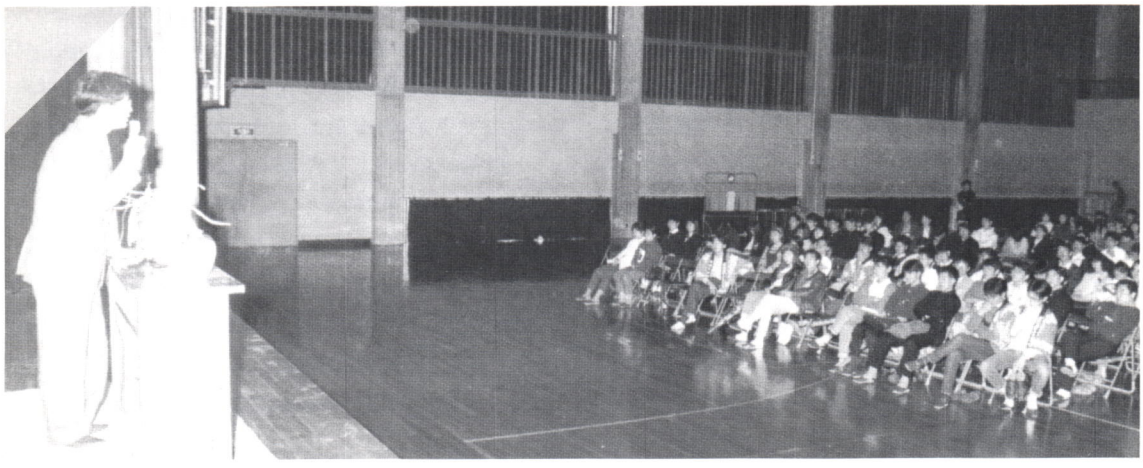
福引きについては、当初目標250本を超えましたが、期による変動が激しく昨年の拠出者に再びお願いをしてしまいました。この点の解決が今後の課題でしょうし、景品構成の変化につながることとなります。

今後さらに発展的に拡大していくために、また収穫祭への取り組みを続けていくために、より多くの会員を動員する企画やそのＰＲ方法について、多くの方のご意見を今後も期待しています。

福引景品を提供して頂いた方は下記の通りです。どうも有り難うございました。

福引景品提供者リスト

１期　桜井英太郎、大谷　熙
２期　鴻田　一章
４期　高橋　公郎
６期　池上　博一、石部　尚二、秋元　俊三、上田　良三、池畑　明倫、乙部　勝、青柳　澄夫、梅沢　勉、大中　邦典、高橋　新市、高橋　勲、中野宜次郎、萩原　義彦、山田　耕三、吉田宏一郎
７期　多田　毅、平沢　寿朗、細井　稔、渡辺　忠彦
９期　国場　幸雄、五老　輝彦、戸塚　隆、藤中　泰三、宮澤　紀一
11期　川瀬　忠夫、桜井　馨、野村　昭、馬渕　祥宏、山本　久方、吉川太久麿、吉田　勝幸
12期　亀山　修明、筧　元則、桜井　聖剛、福島　偉夫
13期　千葉　宗雄
15期　本橋　重夫
16期　川端　清治
17期　小川　光二、後藤　康雄、小林　隆行、須永　泰司、宗田　文明、増山治一郎、村上　有三
19期　中西　広策
21期　石原　一郎、飯田　光茂、小岩　克巳
36期　大石　治雄、熊田　徳英、野尻　敦也



FROM SHIKI ●志木だより

志木会の皆さんへ

「生徒によかれ」をモットーとして

——志木高校長としての抱負——

鐵野　善資

昨年の十月から半年余り、新米の校長として勤めてまいりましたが、その最初から私の判断基準は、常に「生徒によかれ」でありましたし、今後も変わることはないでしょう。このことは、校長就任の挨拶の中でも触れておきました。忘れもしませんが、ドイツ再統一の日となった十月三日のことでした。

前任者である金子晃さん、宮下啓三さんを経て私に至るまで、志木高の先生方の五十周年記念事業への熱い思いはますます高まっているように思われます。音楽教室の整備、図書館の充実、生徒全員を収容できる機能をもったホール等々、夢は広がるばかりですが、これを単なる夢に終わらせるわけにはいきません。これらはいずれも志木高生徒の教育に欠かすことのできないものだと思うからです。

受験勉強が有害なものだと決めつけるのはいささか短絡かとも考えますが、確かに弊害があるのも事実でしょう。つまり、受験科目にないものはすべて切り捨ててしまう教育になっているわけです。幸いにして志木高はこの弊害から完全に免れています。本来の高校教育を実践できる環境にあると言えます。実に恵まれているのです。しかし、充分だと満足できるほどのものでもありません。さらに良くすることは可能であり、もっとよくしなければならないと、私自身の中にもその思いがますますつのってきています。僭越ながら私の任期中に五十周年記念事業のスタートを切らせていただくことを心に決めました。

私が自分に課した大枠は、後任の校長の仕事が妨げられないように配慮することであり、後の目から見て、なぜこんなものを作ってしまったのかと言われることのないものを準備しておくことです。私にできる限りの努力は惜しまない覚悟を決めています。志木会の皆さんにも「後輩によかれ」という気持でご協力をお願いしたいものです。

今年から、石川塾長、藤沢常任理事、柄沢常任理事のご理解を得て、一年生から英語以外の外国語が学べる課外講座を設ける予定です。アジアや中東の言語、古典語なども加えて21か国語を用意しています。日本語と語順が同じ言語も含まれていますし、文字体系が特殊なものもだいたい取り入れてあります。もう欧米の言語だけ勉強していればよい時代ではないはずです。金曜日の放課後だけですが、学習者の努力次第では、卒業の頃には相当の実力を備えていることが期待されます。じっくりと時間をかけて本当の力を身につけて欲しいと願っています。この志木高の試みが成功すれば、大学もこれに対応する措置を講じてくれるでしょう。まさに一貫教育の長所をフルに生かせることにもなります。いろいろな分野の専門家が各地の言語にも通じていれば、同窓生間の大きな情報のネットワークができあがるでしょう。大いに楽しみです。

最後になりましたが、志木高の卒業生を卒業後四十年を経たところで、卒業式にお招きして参列していただくことを考えています。大学では卒業後二十五年及び五十年を経た者を卒業式に招待してくれますが、これに参列した者が皆大いに感動しています。高校にはきっと別の感激があるに違いありません。

学年末の諸行事

1月から3月にかけて学校の年度末は文字通り慌ただしく過ぎて行きます。

恒例の福沢先生命日に因む志木演説会は2月2日（土）に志木市民開館で開催されました。東大教授平川祐弘先生をお招きして「フランクリンと福沢諭吉を通してみた米日関係」と題する講演をして頂きました。

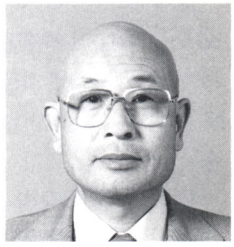
入学試験は2月13日（1次、於三田）、18・19日（2次、於志木）に行われました。志願者総数2652名（内帰国子弟99名）から選抜された新1年生は331名（内帰国11名）で、中等部からの進学者10名を合せて341名となります。4月から8クラス編成でスタートです。

卒業式は3月22日に行われました。今回は各担任の指名点呼により卒業生各自が登壇し卒業証書を個々に校長から受取る方式がとられました。また式後に板橋区立アクトホールに会場を移して卒業生・父母・教職員が一堂に会した祝賀パーティーが開かれました。いずれも新しい試みとして好評でした。41期生として新しく志木会への仲間入りをする本年度の卒業生数は282名です。あたたかい歓迎をお願いします。進路については本塾大学への推薦者281名（文学部5、経済学部106、法学部法律学科45、同政治学科48、商学部25、医学部7、理工学部22、総合政策学部18、環境情報学部5）、他大学進学者1名となっています。

（松崎記）

萩原先生ご退職

萩原司先生が3月31日をもって定年退職されました。昭和26年11月～35年3月本塾大学工学部機械工学科助手として勤務され、33～34年志木高講師を兼務、35年4月より志木高専任教諭となられました。理科（物理）を担当されたほかサッカー部、バレーボール部、電子工学研究会の部長を勤められました。先生のご健勝とますますのご活躍を皆さんとともに祈念いたしたいと思います。



志木高の教育—母校の教壇に立って—

小林　和良

私が志木高を卒業したのは1976年のことだった。以来15年ほどになるが、志木高から学んだ最も大きな収穫は「自由と責任」ではなかったかと思う。制服を着用しなくともよいなど多くの自由が与えられていた反面、けっして免れえない責任も併せて教えられた。ずいぶん厳しいことだと思ったが、管理された教育に比べてそれがどれほど素晴しいことか。今ではそう確信している。

その後、機会があって1981年から3年間と1988年から2年間、非常勤講師として教壇に立たせていただいた。この期間には、カリキュラムの独自性ということで同様の印象を抱いた。それぞれの教師がそれぞれの信念と責任において講義しているのだから、生徒の側にもそれが伝わらぬはずはない。このような志木高の教育方針は大切にしていきたいものだ。

そして、1990年より専任教諭にしていただいた。国語科教師の私は、さっそく研修旅行を担当することになった。研修の対象は石川啄木だった。生徒に発表やレポートを課したところ、予想以上に個性ある労作を発見した。近ごろでは、「自由と責任」の教育とともに、「個性ある人材の育成」ということも考えている。

私が生徒だったころと比較すると、志木高もずいぶん変わった。旧校舎の跡地の大きな建物、野火止用水など自然環境が悪化した。教員の世代交代が何回もあった。生徒の傾向も変わってきたような気がする。これからも志木高は時代の潮流の中で、良きにつけ悪しきにつけ、変化を余儀なくされていくだろう。

だが、先輩から受け継いだ貴重な財産として、恵まれた自然環境と自由な教育だけは守っていきたいと思う。（国語科教諭・26期）

同期会だより

4期 私共昭和29年卒業組は、日吉校・三田校と三校合同にて「福の会」と命名し、毎年12月に同期会を開催しております。詳しくは次回にて報告しますので、皆さん期待していてください。

高橋　公郎

11期 「D組幹事、御役御免へ一言」

ヤレヤレ、やっとE組にバトンタッチでき、D組幹事一同ほっとしています。

振り返ってみると、一月の新年会は出席の返事はかなりの数で安心しておりましたら、当日キャンセルが続出し我々より先生方の数が多いのではないかと内心ヒヤヒヤものでした。

以後、5月のセミナーは相続税対策に頭をしぼり、7月の花火見物は夫婦、子供同伴で大盛況、10月の早慶戦は折角の応援にもかかわらず負け、11月の沖縄旅行は国場君のお陰で大成功と自己採点すれば80点以上の出来栄えと自画自賛をしております。

今回、特筆すべきは永い間連れ添った愛すべき奥方様が多数参加されたことではないでしょうか？

釣った魚に何とやらは昔の話。女性上位といわれる時代に、そしてソロソロ子離れし、新婚時代に戻り2人の生活に慣れるためにも素晴しいことだったと思います。

（昨年幹事D組：磯村吉孝、川瀬忠夫、桜井　馨、吉田勝幸）

「ネットワーク化のお願い」

遊志会の幹事が巡り廻って、E組（理科コース）の番になりました。

幸いE組には技術者、医者、パイロット等、多彩な資源があります。今年は遊志会を通じてこの資源を結集し、全員のネットワーク化ができたら仕事に（定年後の生き方に）大いに役立つと考えます。皆様方が参加しなければ情報が得られませんし、ネットワーク化もできません。

どうか奮って遊志会の行事にお出かけ下さい。

（本年幹事E組：増山雅久、山口　磐、山口　浩、鴻巣晋顕、下田敬典）

平成3年度「遊志会活動予定」をお知らせします。

○2月4日(月)　新年会　於：京橋会館

出席者：恩師8名、会員34名、合計42名

盛会で全員「丘の上」を合唱後、陸の王者たちは懐かしの夜の銀座に消えたのでした。

○3月2日(土)　第41回ゴルフ大会　於：スカイウェーC.C

参加者　15名

優　勝　谷村　静男

準優勝　池田　信彦

3　位　川瀬　忠夫

前日の雨もあがり穏やかな日和のなか、高山弘先生の参加を得、楽しい一日でした。

○5月　第12回セミナー「JAS吉岡機長(11期)」の話

○6月22日(土)　第42回ゴルフ大会　於：霞ケ浦国際G.C

○7月　クルザー東京湾遊覧

○10月　第13回セミナー「資生堂経営戦略」

○11月　第43回ゴルフ大会及び納会（一泊）

馬渕

15期 '90年度亦楽会（15期）は懐かしい先生方の他、鐵野新志木高校長、宮下前校長を含め約65名のご出席をいただき、昨年11月3日収穫祭の当日、'90年度総幹事吉原良一君が経営いたします、志木東口結婚式場「ベルセゾン」にて行なわれました。

当日は家族連れの会員も多く、同期会の前に卒業後初めて志木高を訪れた会員もありま

した。素晴らしい料理と懐かしい先生方との歓談、大変楽しい一日でした。'91年度は11月2日（土）に東京三田倶楽部にて行なう予定です。

'91年度総幹事　倉田

21期 ホテルオークラでの志木会よりはや2年近くの月日が流れてしまいました。21期志木会の皆様、いかがお過ごしでしょうか？　幹事の力不足でその後の動きが鈍くて申し訳ありませんでした。

今年（平成3年）の「10月」または「11月」こそ21期同期会を企画し、実現させたいと考えております。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

なお、維持会費納入と住所変更の方は、確実に対応しておいて下さい。

21期幹事　飯田　0484－74－0213
福地　0473－23－3364

31期 我々31期生も社会に出て6年の歳月を経て、まさにそれぞれの立場においてなくてはならない存在となり、各方面で活躍の声が聞かれます。卒業後、あるいは、志木会設立後に統一的な集いの機会が無いことは、大変不本意なことと反省しきりです。ただ、現状連絡の取れない方、志木会会費に御協力頂いていない方が多数おられ、この数字が志木会の中でも目立って参りました。御協力宜しく御願い申し上げます。

31期　曄道　佳明

34期 34期では、浅見英紀君（元年9月）、本田敏男君(元年11月)、高田将文君（平成2年）、南雲宏君（2年）、宇賀神隆君（3年4月）がめでたくご結婚されました。これは幹事の方に報告があった分だけですのでひそかに結婚している人もいることだと思います。

34期は、ほとんどの人が入社3～4年目で大変忙しい時期ですが、できるだけ情報交換を行いたいので冠婚葬祭や転職した方は幹事まで是非ご一報していただきたい。

34期幹事　山下　孝
勤務先　㈶立体道路推進機構（三井信託銀行より平成4年7月まで出向中）
〒104 中央区明石町11—15
（ミキジ明石町ビル5F）
TEL　03—3542—8411
FAX　03—3542—8428
自　宅　〒175 板橋区高島平
3—10—22—503
TEL　03—3975—5253

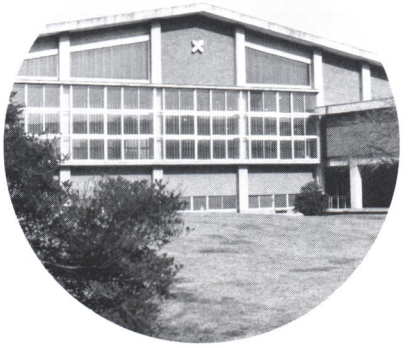
39期 私達が志木高を卒業して、はや3年。よく言われることですが、月日が経つのは早いものです。しかし、皆まだ大学在学中であり、同期会を開催するというほどには至っていません。のんびりと大学生活を満喫していると言ったところでしょうか。39期の面々とは大学で、またそれ以外でよく会っていますが、卒業して、皆がそれぞれの方向に向かっていくようになったときには、同期会を開催したいと思っております。

39期　丸山　和紀

お知らせ：新事業

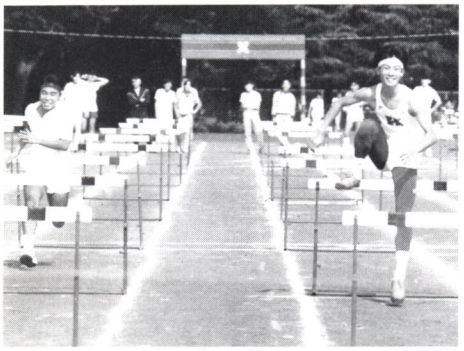
● ヴェリタス商事株式会社と株式会社プリモを業務発展の為、3年3月3日付で合併し、ヴェリタス・プリモ株式会社誕生。

（高橋　公郎　4期）



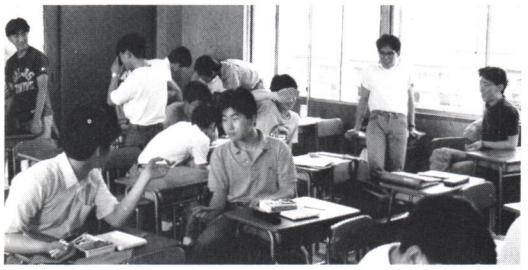
志木高風景'91

'91年度卒業アルバムより



運動会

収穫祭



授業風景

卒業式

先生との思い出

見学旅行

MESSAGE

歓　迎

●櫻井会長より一言

青春を謳歌した志木での高校生活を修了し大学生になられた皆様には、抱負と希望を胸一杯に毎日をお暮しのこととお喜び申し上げます。

これからは新たな仲間として皆様とも仲良く協力し合って、会員相互の発展向上と親睦を図り、さらに志木校の発展に貢献して行きたいと願っておりますのでご協力の程お願い致します。

最後に、皆さんのこれからの輝しい前途を祝し、今後のご健勝を心からお祈り申し上げます。

●41期幹事

正幹事　鈴木　和

「今後はＯＢとして志木校の為に頑張ります」

副幹事　柏木　徹

「志木会の発展の為に努力するつもりです」

お 知 ら せ

●宛名ラベルサービスについて

各会員の宛先ラベルにつきましては、現在各卒業期単位では常時アウトプットが可能な状態になっております。どうぞ同期会の連絡などにご利用下さい。年１回は無償で提供致します（年間２回以上の場合は１名につき10円頂戴致します）。

また所属していた部活のＯＢ会などに利用したい方も現データに所属部を追加登録すれば部単位でのアウトプットも可能となります。

（連絡先）

〒153 志木市本町４－14－１

慶應義塾志木高校内

慶應志木会　菅野さん宛

TEL 0484－71－1361

FAX 0484－74－3008

●平成２年度事業収支について

平成２年度の事業収支は下記の通りとなりましたのでお知らせ致します。

平成２年慶應志木会事業収支

［２／４月～３／３月］

平成３年３月31日

入会金	1,265,000	会報費	2,451,948
広告収入	549,400	入件費	500,000
維持運営	13,479,000	会議費	479,336
収益事業		式典費	390,450
ネクタイ	48,316		
収穫祭	131,079	事務局	
		通信費	462,081
寄付金	0	事務費他	596,913
預金利息	425,169		
		交際費	52,039
		名札費	1,940,443
		藤沢キャンパス寄付	500,000
収入計	15,897,964	支出計	7,373,210
前期繰越金	9,823,794	今期繰越金	18,348,548
合計	25,721,758	合計	25,721,758

●維持会費の入金状況について

維持会費の入金状況は次の通りとなっております。未納の皆様におかれましては、趣旨をご理解のうえご協力いただきたく、宜しくお願い申し上げます。

慶應志木会　　名簿維持会費入金状況

（平成３年３月29日現在）

	在籍者数名	会費払込者名	払込率%		在籍者数名	会費払込者名	払込率%
1	94	34	36.2	22	270	61	22.6
2	60	20	33.3	23	271	54	19.9
3	48	10	20.8	24	267	46	17.2
4	45	13	28.9	25	262	55	21.0
5	106	38	35.8	26	268	37	13.8
6	85	32	37.6	27	249	42	16.9
7	98	31	31.6	28	248	53	21.4
8	94	34	36.2	29	277	36	13.0
9	116	32	27.6	30	262	54	20.6
10	196	60	30.6	31	253	29	11.5
11	218	64	29.4	32	262	34	13.0
12	202	71	35.1	33	244	24	9.8
13	212	62	29.2	34	265	47	17.7
14	195	41	21.0	35	266	30	11.3
15	259	80	30.9	36	258	55	21.3
16	260	60	23.1				
17	265	84	31.7				
18	261	42	16.1				
19	263	64	24.0				
20	260	55	21.6	合計	7,518	1,646	21.9%
21	259	62	23.9	平均	209	45.7	21.9%

（注１）・在籍者数はダブリ（約100名）及び死亡等を含む。
・振込者で無記名者あり。
・ダブリ者入金分両期とも入金扱い。

編集後記

昨秋発行の寄宿舎「つちくれ」閉舎号に寄せられた、石川忠雄塾長の文章がすばらしい。寄宿舎は、志木高が、その個性を主張する際の特徴の一つであり、今日の発展に寄与した柱であった。そう寄宿舎の歴史と意義を評価された後、結論の部分で塾長の投げかけられる言葉を、志木会は肝に銘じて受けとめなければなるまい。

「創立50周年がもはや遠くではなくなった今日、寄宿舎がこれまではたしてきた役割を継承するものは何か。それを見出すのが次の課題となるのであろう。寄宿舎に象徴されるように連帯感豊かな志木高等学校の良き気風が、かつて寄宿舎生として若き日々を送った人々を中心として、装いを改めて継承されることを、皆さんと相共に祈りたいと思うのである。」　（馬）

慶應志木会会報　1991（春・夏号）● vol.5

平成３年５月20日発行
編集・発行　慶應志木会（慶應義塾志木高等学校同窓会）
〒353 志木市本町４-14-１
発行人　櫻井英太郎
印刷　㈱精興社